

## 第18回上サロベツ自然再生協議会再生技術部会 議事概要

日時:平成26年2月20日(木)13:30~16:50

場所:豊富町定住支援センター多目的ホール

出席者:22名(個人10名、団体・機関12名)

傍聴者:5名(うち報道関係者3名)

### 1. 開会

・資料の確認

### 2. 議事(報告)

#### ①緩衝帯実証試験について

○北海道開発局稚内開発建設部から報告

《質疑》

(構成員)緩衝帯に接する排水路の水質が問題になる。農地側の排水路はどのような水質になっているのか。また、農地側から湿原側への水質の影響はないか。

(開 建)水質調査を実施しているが、本日は調査データを用意していない。しかし、一般的に農地からの流出が懸念されるリン酸及び硝酸帯窒素などの影響は湿原に見られなかった。

(構成員)水質の管理が必要であり、調査結果を踏まえた水質管理方法を検討する必要があると思われる。

(座 長)次年度以降、水質調査の結果の報告をお願いします。

(構成員)実証試験地以外の緩衝帯の施工状況はどうなっているのか。

(開 建)サロベツ緩衝帯及び豊徳緩衝帯以外の緩衝帯は施工済みである。

#### ②沈砂池モニタリングについて

○北海道開発局稚内開発建設部から報告

《質疑》

(構成員)沈砂池に堆積した土砂はどのように扱うのか。

(開 建)堆積土砂を十分乾燥してから、要望があれば農地に還元する。

(構成員)堆積土砂の成分を調査しているのか。

(開 建)土砂の粒度、比重等の調査を行っているが、本日はデータを用意していない。

(構成員)堆積土砂を農地に還元しても問題のない成分なのか把握するために、土砂の成分を調べておいた方がいい。

(構成員)排水路を通じて流出するフミン質等が下流の水質に影響していないだろうか。

(開 建)濁りについては沈砂池の下流側に濁度計を設置し調査をしている。水質については一般的な水質項目の確認をしている。

(座 長)この地域の河川等と沈砂池のある排水路の水質を比較しておくのがよいと思う。水質データを確認し、機会があれば報告してください。

(構成員)沈砂池の効果を数値的に評価するため、排水路を流下する土砂量と沈砂池に堆積した土砂量との割合を明らかにすることが必要だと思う。

(開 建)排水路を流下する全土砂量を調査することは、現時点では技術的に難しい。

(構成員)全土砂量を調査することが難しいことは、承知している。

(座 長)沈砂池の設置目的は下流側への土砂流出量の軽減を目的としているものと認識している。排水路の水質や浮遊土砂等のデータが蓄積できた時点で、勉強会等の実施の検討をお願いします。

③サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策について(環境省北海道地方環境事務所)

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質疑》

(構成員)水路5でササが減ったのは地下水位が上がったことに加えて、蓄えられた地下水の水質がよくなったことが考えられる。地下水の水質は調べているか。

(環境省)水路1、2のモニタリングでは調べているが、水路4、5については今後のモニタリングで調べる予定。

(構成員)湿原における水位低下を防ぐためには、湿原の凹凸をなくすことが重要だと考えている。旧河川跡における今後の対策について、過去の研究から埋没した箇所(箇所)の土壌の透水係数は高いことがわかっているため、地表に土堤を設けたとしても地下で透水してしまう可能性がある。地表の対策よりも土壌の入れ替えを検討する必要があるのではないか。

(構成員)地表での対策に加えて、地中にコンパネや木杭を入れるなど、地下水の流動を止める対策を検討してはどうか。

(環境省)検討したい。

④サロベツ原生花園跡地の植生回復試験について(環境省北海道地方環境事務所)

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質疑》

(構成員)試験区Bではなぜクサヨシが多いのか。

(環境省)このクサヨシは牧草由来のものだと思われるが侵入の原因はわからない。

(構成員)試験区の水質は、埋め立て土砂の影響を受けている可能性がある。南側の湿原に流出する懸念もあるため、水質のモニタリングは続けた方がよい。

(環境省)了解した。

(座 長)環境省は今後試験区Aに泥炭の投入などを計画しているが、了承することでよいか。

(一 同)異議なし。

⑤泥炭採掘跡地の植生回復試験について(環境省北海道地方環境事務所)

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質疑》

(座 長)裸地の対策について、環境省として当面はモニタリングを続ける方針で、新たな対策を行う予定ではないということか。

(環境省)試験区の設定は平成 23 年に行っているが、翌年のモニタリングは秋にしか実施できなかったため、実質的なモニタリングができたのは今年度が1年目と考えている。もうしばらくモニタリングを行って効果を検証し、その結果を踏まえて試験区の拡大などを検討したい。

(構成員)泥炭採掘跡地に工場から戻されたのはフミン質であり、植物の定着には不向きと言える。裸地を掘り下げて相対的な地下水位を上げ、ミズゴケを撒くなどしてはどうか。

(構成員)カナダの泥炭採掘地では、泥炭の「採掘」ではなく「収穫」と言い、再生することを前提に泥炭を採取している。手掘りの場合と違って機械掘りの場合はなかなか植生が再生しない。ミズゴケを撒くのも1つの方法だろう。

- (座 長)本日も環境省からは、徐々に植生は回復してきているという報告があった。基本的にはあと数年は様子を見てみてはどうか。ただ、工場から戻されたのは本来の泥炭ではないのは確かなので、一部の区画で試験として裸地を掘り下げたり、ミズゴケを撒くことも検討してもよいだろう。
- (座 長)環境省は今後開水面に泥炭を投入することを検討しているが、そのことについては如何か。皆さんから意見がなければ試験的に行ってみるということではどうか。
- (一 同)異議なし。
- (座 長)環境省からは、最後にシカ道のマップなどについて報告があった。サロベツでもエゾシカが増え、湿原において新たな問題が生じている。環境省では、今後エゾシカについても自然再生事業に位置づけていく考えがあるのか。
- (環境省)今後の検討課題と考えている。

⑥稚咲内砂丘林自然再生事業 平成25年度の実施状況について(林野庁北海道森林管理局)

○林野庁北海道森林管理局から報告

《質疑》

- (構成員)水位低下について、湖沼の開放水面面積の減少は、海からの飛砂により湖沼が埋まっているという状況は考えられないか。
- (林野庁)実施計画を策定するにあたって湖沼の開放水面面積を空中写真を利用して判読し水位低下を表す指標としており、この方法は研究者等の調査でも用いられているところである。また、砂丘林の地面を掘ると砂が出てくる状況を確認はしているが、データは収集してはいない。なお、実施計画を策定するまでの自然再生協議会等の場において、飛砂の議論についての記録等はないようであるが、可能な範囲でデータ収集に今後努めたい。
- (構成員)砂丘林の沼の水が減り始めたのは、平成7年頃から急に進行したように思われる。また、現地にはモンゴリナラがあるようだが、ミズナラとの関連を調べたことはあるのか。
- (林野庁)学術的な調査はしていないが、現地にモンゴリナラがあることは確認されている。
- (座 長)モンゴリナラのことは、北大植物園の富士田先生に聞いたことがあるが、まだ定まった学説はないという話だった。今度、富士田先生が出席した際に確認してみたい。
- (構成員)昭和42年の総合調査報告書の中に、稚咲内を起点に北がモンゴリナラ、南にミズナラが分布すると記されている。私も、一度調べてみたいと思っている。
- (構成員)平成7年頃から湖沼の面積が小さくなったということだが、原因は何か。
- (林野庁)水位低下の原因を特定するのは難しいと考えているが、植栽や堆雪柵の設置により、雪溜め効果が発現し、湖沼周辺の積雪深が多くなり涵養量が増加して水位低下を抑制することを期待しているところである。水位等は今後も継続的に現状の把握を行うこととしており、技術部会等において皆様から意見等を頂きたいと考えている。
- (構成員)2006年から2008年にかけては降雨量が少なく水位が低下したと思われるが、最近では湖沼の水位は回復傾向にあるように思う。水位対策については適正な情報に基づくことが大切である。
- (林野庁)意見を踏まえ、水位対策に資するよう、引き続きデータの収集に努めたい。
- (座 長)上サロベツ自然再生協議会において、当初、稚咲内に関する情報が少なかったため、先ずは状況を把握していこうということで始まったところであり、2006年から渇水の年が続いたということが分かってきた。湖沼水位も降雨との対応だけではなくやや長い周期の水収支も関係するので、もう少しデータを取り続けなくてはいけない。事業が始まってまだ2年であることから、湖沼群での長期の水位観測データがないが、森林管理局においては、水位等データを収集して頂きたい。
- (構成員)稚咲内でこのようなことがあると、湿原の方ももっと影響があると思う。サロベツ湿原全体のことを考えると、稚咲内をきちっと整備していただきたいと思う。

(座 長)今回、今後の対応に関する提案があった。堆雪柵の状況調査、水みちのさらなるせき止め、植栽苗の生育確認ということだが、植栽の追加はないのか。また、水みちが見つかった場合等、現地状況に応じて臨機応変な対応に努めて頂きたい。

(林野庁)植栽可能な箇所が現時点では見当たらないことから、今後は実施計画書に基づき、代替措置としての堆雪柵設置や植栽箇所の工夫について検討する考えである。また、緊急度等を踏まえ現地状況に応じて適切な対応に努めたい。なお、今後も水位や積雪深等のデータを継続して収集・比較し、技術部会等に報告させて頂きたい。

### 3. その他

なし。

### 4. 閉会